

埼玉佛教

平成23年1月 第185号

平成23年1月7日 発行

No.185

〒330-0063

さいたま市浦和区高砂4-13-18

財団法人 埼玉県佛教会

電話 (048) 861-2138

FAX (048) 864-6649

発行人 萩野 映明

http://saibutu.net

印刷所 関東図書株式会社



講師 曹洞宗 普門院住職 白澤雪俊師 (青森県弘前市)

目次	
▼新年の挨拶	2
・平成22年度 宗教法人研修会開催案内	2
・支部だより	2
・本庄市佛教会	3
・東松山・滑川仏教会	3
・第33回埼玉県佛教徒大会	4
▼トピックス	
・埼玉県佛教会 第3回埼玉佛仏教文化講座	6
・「埼玉同宗連」 東松山現地学習会	7
第32回研修会	7
狭山事件現地学習会	8
部落解放埼玉県研究会	8
▼「日想経行」開催のお知らせ	9
・托鉢募金	9
▼年賀広告	10
・計報	12
・事務局日誌	12
・今後の予定	12
・編集後記	12



新年の挨拶

財団法人埼玉県佛教会 会長

萩野 映明



新年明けましておめでとうございませう。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申しあげます。

春は花 夏ほととぎす

秋は月

冬雪さえてすずしかりけり

曹洞宗の開祖道元禪師の句である。禪は、暑い夏、寒い冬と考えることを嫌う。そんな人間の選り好みの心を嫌う。そうではなく、今を大事に生きよと教える。かつて、ノーベル賞の授賞

式で、文学賞の川端康成氏が、この句をスピーチの中に取り入れ、満場の拍手を浴びた。

春、夏、秋、冬と日本には四季がある。情緒あふるるこの季節の変わり目が、欧州人の心をとらえていることは間違いない。ところが、ここ数年、この季節の節目がなくなっているといえないだろうか。



(画像・大本山永平寺提供)

私が永平寺で修行したのは、もう40年も前のことである。12月1日から8日の明け方まで、摺心の行があった。朝4時に振鈴が鳴り、夜9時の開枕まで、1日15炷は坐につく。僧堂の屋根の上には、降り続く雪が積もり、その重みで、下に落ちる。

その轟音に震えがきたのも、いまとなつては懐かしい思い出である。

広い僧堂には、雲水が、役寮ともども200人余。暖房は大鉢に練炭。ただ、大勢の人の体温のせいかな。寒くてふるえるということはなかった。

前年12月の摺心。雪は降らなかった。今年もこれから冬の厳しさを迎え、寒さが厳しくなるのは間違いないが、いずれにしても、温暖化である。

この温暖化が農作物の生育に影響を及ぼし、世界各地での飢餓状態につながっているという。地球環境の変貌を意識しないではいられない。

特に東アフリカのケニア、エチオピア、ソマリアでの被害が深刻だという。我々を取り巻く生活環境もまた、厳しさを増し、世界情勢は全く予断の許されない状況。そして、日本国内だけをみても雇用、景気、教育、食

の安全性の問題など、難問が山積しているが、まずはこうして無事に新しい年を迎えることができたことを感謝する気持ちを大切にしたいと思う。

世の中の動きを敏感に、グローバルにとらえて、一緒に頑張りたい。この新しい年がより佳き年になるよう心より祈念し、私からの年頭の挨拶といたします。

宗教法人研修会案内 平成22年度 宗教法人研修会の開催について

- 平成23年 2月9日(水)
川越会場 川越地方庁舎
[川越市新宿町1-1-1]
- 平成22年 2月10日(木)
さいたま会場 埼玉会館
[さいたま市浦和区高砂4-13-18]

支部だより

本庄市佛教会

第20回『仏』のお話を聞く会

▼平成22年10月2日(土)、埼玉
グランドホテル本庄において、
第20回を迎える『仏』のお話を
聞く会」が開催された。参加者
は壇信徒150余名。講師に曹洞宗
幸春院(本庄市)住職、吉竹智
輝師をお招きし、演題「父母恩
重經のころ」と題し講演いた
だいた。ご存知のように、釈迦
は、母を早く亡くされた方なの
で、母への思いの内容が多かつ
た。返礼を求めないで、人に尽
くす奉仕の精神を教えられた。
自分も年を経て、やっと解って
きた。親への思いをあらためて
感じさせられた内容の講演でし
た。

(報告・本庄市佛教会事務局)

東松山・滑川仏教講演会

第16回 仏教講演会

▼平成22年10月11日(月)、東松
山・滑川仏教会主催の仏教講演
会が東松山市民文化センターを
会場に開催された。東松山・滑
川仏教講演会は、今年で16回目
を数える。収容1200名の会
場はほぼ満席。当日は「秋晴れ」
というよりも、初夏の陽気で日
差しが強く暑い一日であった。
開場予定時刻前に100名をこえる



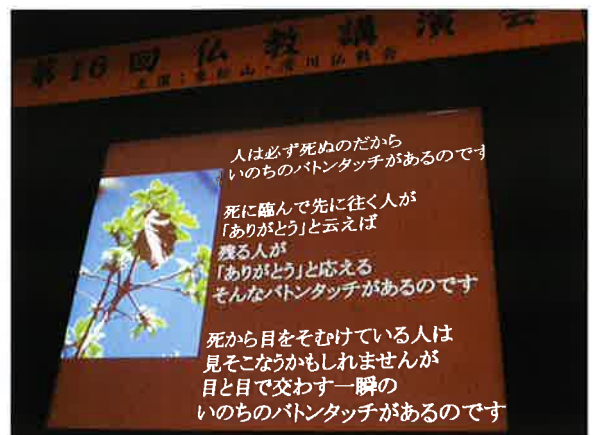
方々が並び、青木新門先生への
関心の高さを感じた。

開会行事は、嵩海雄師(真
宗大谷派・了善寺)が導師を勤
め、参加者と共に三帰依文を唱
え法要が行われた。

講師はアカデミー賞受賞映画
作品『おくりびと』の原案とな
った『納棺夫日記』の著者であ
る青木新門氏。演題は「いのち
のバトンタッチ」―映画『おく
りびと』に寄せて―と題し、2
時間を超える講演をいただいた。

青木先生は冠婚葬祭業者の中
で納棺専従社員として従事した
体験をもとに多岐にわたる話題
を、ときに静かにそして、やさ
しく、ユーモアを交えて情熱と
信念を持って講演された。

映画化となった経緯について
は20代の本木雅弘氏からインド
紀行文に『納棺夫日記』の中の
一文を引用させて欲しいという
申し出の電話が本木氏との『ご
縁』の始まりという。この申し
出に快諾してしばらくした頃、



一冊の本が送られてきた。…「蛆
も命なのだ。そう思うと蛆たち
が光って見えた」…この一文を
見た時、著書『納棺夫日記』が
『蛆の光』をメインテーマにし
た内容であったこともあり、若
い世代の本木氏が持っている感
性に惹かれたのだという。もし
て映画化が叶うなら彼以外に適
役は思いつかないと考えた。以
来、幾多のやりとりを経て映画
化が実現。国内の映画賞を総な
めにし、アカデミー賞まで受賞。

第33回埼玉県佛教徒大会

◆平成23年3月25日(金)、埼玉県佛教徒大会が岩槻支部主管により開催される。今年度は、新しい試みとして、午後から開催とし、参加者は入場無料。今年度の大会テーマは「生きているっていいな」。本大会は、先に開催された各流讃佛歌奉詠大会と共に、本会の二大事業の一つである。

記念講演、講師紹介

記念講演の講師は、高幡山明王院金剛寺(高幡不動尊)第三十三世貫主の川澄祐勝師を迎える。昭和6年、埼玉県秩父生まれ。



れ。法政大学経済学部を卒業。
高幡不動尊の紹介



高幡不動尊は、関東三大不動尊のひとつにあげられ、平安時代初期に清和天皇の勅願を受け山中に不動堂を建立し、不動明王を安置したのが始まり。

三万坪の境内の豊かな自然を



生かして「参詣の方々には一年中楽しんでいただける寺、命の洗濯をしていただける寺」が motto。

毎年6月には「あじさいまつり」が開かれている。6月初旬、最初に咲き出すのは山あじさい。約4000株はある自生の山あじさいに加え、全国から集められた50種・700株にも及ぶ様々な山あじさいも可憐な姿を見せて、訪れる参拝客の目を楽しませる。山あじさいの見ごろが過ぎる6

月中旬からは、約3000株もの大輪のあじさい、額あじさいが見頃になり、五重塔周辺や「あじさいの小径」、大日堂周辺を彩る。境内の斜面には一株が身の丈以上のものも多く、覆いかぶさる様は他ではみられない景観もみどころのひとつ。

境内に祀られている丈六不動三尊は日本一と伝えられており、重要文化財に指定されている。高さ約3m、総重量1.1tを超える巨像の修復にあたっては、身代わり丈六不動三尊を造立、宝輪閣・奥殿の建立等、一貫して一山の興隆、文化財の保護を推進。

記念公演、インド舞踊

川澄祐勝師の公演に続き、アトラクションとして、インド舞踊が披露される。主演は「プラーナ」インド古典舞踊研究会を主宰する里見まこ先生。



1988年、ヨガに出会いその哲学から生きることの喜びを知る。国内でバラタナティアムを8年間学び、南インドのチェンナイにて「NRITHYA JOTHI」を主宰するウマ・スンダラム先生に師事、理論と実技を学ぶ。現在、東京都内および埼玉県内にてバラタナティアムとヨガの指導に勤しむ。バラタナティアムとは、もともとヒンドゥー教の寺院で巫女が神々に捧げるために踊っていたもの。主に一人の女性によって

踊られる。それはエネルギーであると同時に、優美さ、細やかな舞踊表現が要求され、身体や腕、指先、顔や目の動きをつかって感情や物語を表現するもの。複雑な足さばきや活発で優雅な動き、彫像のような姿態、手話のような手、指、そして顔による表現も主な特徴。ダイナミックで力強いリズムが特徴で、足で大地を踏み鳴らす、歯切れよい踊り。

インド舞踊は世界最古の舞踊と言われており、かつてインド舞踊は、舞踊としてでなく、人と神との交流手段として発達。感情や精神を微妙に表現し得る優れた踊り手と、「ヴェーダ」(古代インド、バラモン教の聖典の総称)によってのみ、神に応えて舞うと考えられてきた。

(里見まこ氏主宰「コブラーナ」インド古典舞踊研究会ホームページより一部引用)

岩槻の歴史紹介

岩槻区は、さいたま市の東部に位置し面積は約50平方キロメートル。自然環境に恵まれた岩槻の地は古くから開けた所で、遺跡から発見された出土品などによると1万年以上前から人間の生活が営まれていたことがわかっている。縄文時代前期と後期には陸地に海が浸入し、台地部には国史跡真福寺貝塚をはじめとする貝塚が多くできた。江戸時代まで岩槻周辺には利根川、荒川などの大河が流れ、また東北地方に通じる主要な街道が通るなど水陸交通の要衝だった為、岩槻は武蔵国東部の中心地として大いに栄えた。

明治以後も南埼玉郡役所が置かれるなど、県東部の政治・経済の中心地であり続けた。昭和29年には岩槻市となり、市制施行当時約3万5千人だった人口も、都市化の進展により今では11万人を数える。そして、さい

たま市・岩槻市の合併により、平成17年4月1日さいたま市の第10番目の区として「岩槻区」が誕生。

岩槻は人形の街として有名。城下町として、また日光御成道の宿場町として賑いをみせていた岩槻に、江戸時代の初め、日光東照宮の造営、修築にあたった工匠たちが、そのまま足をとどめ、人形づくりを手がけたのが起りりと伝えられている。岩槻周辺は昔から桐の産地で、箆箆や下駄などの桐細工が盛んに行われていた。工匠達は、この桐の粉を糊と練り固めて人形をつくるととても発色がよく、また岩槻の水が胡粉こかんに適していることを発見。これが、岩槻人形の起りであるといえらる。この製法で作られた桐塑人形は丈夫で壊れにくく、また土に比べ精巧に作る事ができ量産にも適していたため、以来、岩槻の代表的地場産業として発達し、現在に至る。

トピックス

●埼玉県佛教会

第3回埼玉佛仏教文化講座

▼平成22年11月17日(水)、埼玉佛教会を会場に文化講座が開催された。テーマは、前回の文化講座で集められたアンケートを参考に、前回に続き『精進料理ノススメ・其の式』と題して参加者からの要望を反映させた内容に決定。講座は2部構成。最初は青森県普門院住職、白澤雪俊師より、伝統仏教における食事のありかたについて、お話いただいた。

最初のオハナシの部では『精進ノ努力』と捉えがちであるが、内容を問わず、どのような事柄であれ、とにかく頑張るのが『努力』であり、正しい方向に向かって常に励み続けてこそが『精



進』なのだと言った。

続いて、道元禅師の著書『典座教訓』に沿って進められ、その書は、料理の味付についての具体的なレシピや方法が書かれているものではなく、もっと根本的な、食材を調理するにあたっての心構えに重点がおかれている。献立の立て方からお米のとぎ方、野菜の扱い方、調理と味付に至るまで詳細な心構えが記述されている。そのような心構えでできあがった精進料理は三徳が備わっている：見た目は

かるく、味はやさしい「輕軟」、清潔でさっぱりしている「淨潔」、正しい作法によって作られる「如法作」。そして精進料理の極意は「辛、酸、甘、苦、塩」の「五味」に「淡」^{あわい}を足した「六味」であるとされる。



白澤師による講話が行われている隣室では、参加者に試食頂く料理支度が進められていた。毛呂山町にある曹洞宗高福寺は、埼玉県内で精進料理を味わうことのできる寺院の一つ。副住職の萩原裕史師がまごころ込めて

調理したごま豆腐を器に盛りつけ、袖胡椒にあんかけで仕上げた。そして、白澤師のご友人、河村康仁師(船橋市・曹洞宗・長福寺)がキャベツのピーナツ和え、クルミ和え、皮引き大根もみ漬けの三点盛りを整えていた。

禅宗において食事の前に唱えられる偈文「五観の偈」^{ごかんげ}を参加者全員で唱えてから試食の時間。参加者の中にはマイ箸を持参されている方が居ただけでなく、全員箸の持ち方、使い方が美し



いというのが印象に残った。

今回の文化講座開催にあたり、前日入りされた白澤師とともに、埼玉会館近所のスーパーに食材の買い出しに出た。予め必要な食材名だけが書かれた一枚のメモ。前日までの参加申込者数を伝えると、一切の迷いなく適正な量の食材をカゴに入れた。当日は、その食材を余すことなく一切を使い切り、食べ残しも出なかった。

締めくくりに白澤師は「私は料理屋ではない。食材に失礼のないよう作る。ただそれだけ」と語った。

事務局が用意した「五観の傷」を印刷した箸袋はお持ち帰り頂けたが、割りばしと紙コップがゴミとして出てしまっただけが反省点である。



(小池)

「埼玉同宗連」

「東松山現地学習会」



▼10月13日(水)、武州鼻緒騒動の舞台となった東松山岩殿観音正法寺を訪ねる学習会を開催した。参加者は各教宗派から17名。東松山の高坂丘陵市民活動センターに集合し、解放同盟埼玉県連執行委員であり、武州鼻緒騒動研究会事務局長の藤田源市氏から、騒動についての概要説明

を受けた。続いて、会場を岩殿観音正法寺(真言宗智山派)に移し、説明を受けた。「埼玉同宗連」では、身近な人権問題を学習することは重要な研修であると捉え、実際に差別事件が発生した地域や資料館などを訪れる現地学習会を行っている。

「第32回研修会」

▼11月24日(水)、埼玉会館を会場に「第32回研修会」を開催した。埼玉県精神障害者団体連合会ポプリ事務局長の竹内政治氏を講師にお招きし「こころのバリアフリー」と題して90分の講演。



講師は現在、県内のグループホームで世話人として働きながら、埼玉県南部を中心に活動を行っている精神障害者・当事者会ウィーズの事務局長を兼務。精神の病を持つ当事者同士の親睦、情報交換を図りながら「障害を持つ当事者が公の場で自分の意見を言うことは大事である」という考えのもと、全国各地での講演を行う日々を送っている。

竹内氏は高校卒業後、社会人となった。部活動など充実円満

な学生時代とは異なり、否定されてばかりの環境変化に適応できず、19歳の時に統合失調症を発病。2年間におよび精神科の隔離病棟生活の体験談から始まった。そして退院後、通うようになった精神障害者の作業所での体験が、人生の大きな転機になったのだという。「一般社会は否定の文化だが、作業所は、障害への理解を持った肯定の文化である」と語る。人は肯定され、認められ、誉められるという経験を積み重ねることにより、本音や弱さを表に出せるようになる。所謂「こころのバリア」が解き開かれフリーとなった状態である。「精神障害者」の間違った理解や知識から生まれる差別や偏見は、現代社会に深く根を下ろしているのが実状であるが、竹内氏の講演は悲壮感や悲観的なものではなく、時に笑いを交え、最後に希望と明るさを感じさせるものであった。

狭山事件現地学習会

11月2日（火）、解放同盟埼玉県連主催の狭山事件現地学習会に参加した。行政関係者、埼玉人企連、県連各地区から大勢の参加があり「埼玉同宗連」は事務局・曹洞宗埼玉県第二宗務所から4名が参加した。



狭山市駅前から3つのグループに分かれて出発し、石川一雄さんの「自白」とされる「出会地点」「犯行現場」を徒歩で



歩いて、「自白」の矛盾などの説明を受けた。石川さん宅では、万年筆発見の不自然な状況を目で確認。午後は狭山市産業労働会館で冤罪と人権について学び、石川一雄さんご夫妻から、無罪を勝ち取りたいとの熱い決意が語られた。現地は住宅が建ち並び、当時の面影はない。永い年月を経ていることが分かる。今もなお戦い続けておられる石川さんのご苦労と運動団体の熱意が、裁判長から検察への証拠提示要請へと進展したことを感じる。一日も早い、無罪判決を願う。

部落解放埼玉県研究集会

11月30日（火）、第30回部落解放埼玉県研究集会が深谷市民文化会館で「世界の人々とともに人権運動の輪を広げ、平和と人権の21世紀を創造しよう」を集会テーマに開催された。全体会では30周年を記念して、金子みすゞの障害を描いたひとり芝居が上演された。分科会では、臨済宗妙心寺派の森田信隆師（ときがわ町・全長寺）から報告がなされ、意見交換が行われた。



玄奘三蔵靈骨塔奉拝

「日想経行」開催のお知らせ

▼昨年、玄奘三蔵靈骨塔建立60周年を記念し、僧俗あわせ篤信の仏徒百数十名によって厳修された日想経行（にっそうきんひん）が今年も開催されることになりました。

法師御命日にあたる節分明けの2月5日（土）、西方より寂光差しくる時刻を選び、靈骨塔周囲にて歩行瞑想を行うこの試みは、不惜身命17年に及ぶ法師西天取經の旅をわずかながらに追体験し、決意も新たに菩薩としての一年を始めようというものです。資格不問にて、どなたでもご参加ください。

▼日時：平成23年2月5日（土）、午後3時30開場、午後4時開式
※小雨中止

▼場所：玄奘三蔵靈骨塔 さいたま市岩槻区表慈恩寺1037
※着替えの場合は、慈恩寺境内の会館をご利用いただけます。
※搭前には駐車場はございます。慈恩寺境内隣接駐車場をご利用ください。

▼服装・持物：一般の方は、暖かい服装でお出かけください。僧侶は法衣（程度は各位随意）にて願います。引磬（搭前にて一打一礼を行います）。

お問い合わせは：「日想経行」世話人事務局 関口亮樹まで。
〒349-0115
蓮田市蓮田45の1慶福寺内
電話090(7209)5701
FAX048(768)1218
mail: shanti-lotus@i.softbank.jp

●歳末助け合い托鉢募金

▼平成22年12月4日（土）、浦和佛教会（会長・鎌田亮宣師）、埼玉県佛教青年会（会長・湊見善雄師）の共催で、歳末助け合い托鉢募金が浦和駅近辺にて行われた。募金活動により集められた浄財（現金7万7962円）は、後日、湊見会長と浦和佛教会計担当の木村健正師（さいたま市・曹洞宗・守光院）両名が埼玉新聞を訪問し、埼玉新聞・社会福祉事業団へ寄託した。



手塚治虫原作・大型劇場アニメ『ブッダ 赤い砂漠よ！美しく』

2011年5月28日全国ロードショー 《全3部作》

第1部ではシャカ国の王子 ゴータマ・シッダールタの誕生から思春期までを描く。厳しい階級社会に疑問を抱くようになり、人を救えるのなら高貴な身分を捨ててもいいと願うシッダールタ。そして、シャカ国に攻め入るコーサラ国軍の指揮をとるのは最下層の身分から立身出世しようとする勇者チャプラ。二人の出会いが壮大なドラマの幕を切り落とす。

当日券 1,800円 前売券 1,300円 本会あつかい 1,000円



財団法人 埼玉県佛教会

副会長 木村盛雄

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂四-13-18
電話 ○四八-186-1121三
FAX ○四八-186-416六四九

(財)埼玉県佛教会 会長
(財)全日本仏教会 理事
曹洞宗 能仁寺 住職

萩野映明

〒357-0063 飯能市飯能一-3-21九
電話 ○四二-197-314二二八
FAX ○四二-197-415三四六

http://noninji.com

(財)埼玉県佛教会 副会長
真言宗智山派 三学院住職

倉持秀裕

〒335-0001 蕨市北町3-2-4
電話 048-4443-2125
FAX 048-4443-2544

(財)埼玉県佛教会専務理事
水光山 大應寺 住職

深谷雅良

〒354-0011 埼玉県富士見市水子一-七六五
TEL ○四九-151-1561一
FAX ○四九-151-1560一

(財)埼玉県佛教会 常務理事
自坊 妙福寺(日蓮宗)

穂山教雄

〒346-0066 久喜市菖蒲町小林23889
電話 0480-85-1413

厄除本庄薬師如来
開運大黒尊天

住職 加藤玄静

自坊 鉢形山城立寺

〒367-0052 埼玉県本庄市銀座三-14-1七
TEL ○四九五-24155四四
FAX ○四九五-21736六六

(財)埼玉県佛教会常務理事
自坊 観音寺(真言宗豊山派)

杉村良哉

〒340-0816 八潮市中央四-18-10
TEL ○四八-1996-4450
FAX ○四八-1996-4450

浄土宗
蓮馨寺

(財)埼玉県佛教会常務理事
衆原恒久

〒350-0066 川越市連雀町七-1
TEL ○四九-131-004三
FAX ○四九-131-067六

(財)埼玉県佛教会顧問
藤田得三

勝願寺 住職

鴻巣市本町八-11-11
電話 ○四八-154-102七
FAX ○四八-154-110五四

天台宗東泉寺住職
(財)埼玉県佛教会理事

河野亮玄

〒330-0044 さいたま市浦和区瀬崎二-15-1三
電話 ○四八-186-151一四
FAX ○四八-186-414一五

曹洞宗
清涼山曹源寺

住職 中村瑞峰

〒355-0015 東松山市本町1-5-3
電話 0493-22-0099

草加市佛教会

会長 丹羽尊照
事務局長 帛溪文有

真言宗豊山派

観照院

〒343-0851 越谷市七左町七-127八
TEL ○四八-196-156九五
FAX ○四八-196-156九六

住職 鷺津憲道

真言宗智山派 延命寺

津島英世

吉川市吉川一五四一

第33回埼玉県佛教徒大会 日程

大会テーマ 『いのちをみつめる』

サブテーマ ～生きているっていいな～

入場無料

日時 **平成23年3月25日(金)**
開場(受付開始) 13:30、開会14:00

会場 **さいたま市民会館いわつき** (旧イグレッタ)
[さいたま市岩槻区太田3-1-1 / 電話048-756-5151]



《プログラム》

開会行事 ①開会の言葉 岩槻佛教会副会長 坂爪 快要
②記念法楽
③大会会長挨拶 (財)埼玉県佛教会会長 萩野 映明
④来賓祝辞
⑤諸連絡

記念講演 『いのちを楽しむ』
日野市 真言宗智山派別格本山高幡山金剛寺
(高幡不動尊) 第三十三世貫主 川澄祐勝先生

記念公演 『インド舞踊』
「プラーナ」インド古典舞踊研究会主宰
里見まこ先生 (インド舞踊家)

閉会行事 閉会の言葉 岩槻佛教会会長 上村 正剛

※内容は変更になる場合があります。

第33回埼玉県佛教徒大会

ポスター・チラシ協賛業者芳名

(株)ウィズコーポレーション様 / (株)幸隆様
財木屋関東(営)様 / 武州中島紺屋様
(株)オーシャン・トラベル様
浦和ロイヤルパインズホテル様
お念珠・仏具・装身具 しぶや様

[埼玉県佛教会募集分 順不同]

浄土宗

勝願寺 住職 藤田得三

〒365-0038 鴻巣市本町8-2-31
TEL 048-541-0227

法然共生

宗祖法然上人800年大遠忌

計 報

謹んでお悔やみ申し上げます。

平成22年10月

15日 鳩ヶ谷市千手院(曹洞)

庵 達雄 師(81歳)

17日 越谷市観音寺(豊山)

小林 信覺 師(88歳)

21日 戸田市妙顕寺(日蓮)

齊藤 純忠 師(92歳)
蕨・戸田元支部長

21日 川口市源長寺(浄土)

小林 定海 師(95歳)

11月

7日 深谷市吉祥寺(天台)

三崎 良周 師(89歳)

28日 鳩ヶ谷市法性寺(曹洞)

飯田 洪舟 師(93歳)



事務局日誌

平成22年(2010年)

11月

2日▼埼玉佛青「写仏」

4日▼「埼玉同宗連」啓発資料
作成委員会

5日▼酒井文雄元会長本葬儀

8日▼「県佛大会打合せ」(岩
槻)

9日▼「全仏」仏教徒会議栃木
大会(10日)

17日▼公益法人制度改革移行方
針検討委員会

▼第3回埼玉佛教文化講座
『精進料理ノススメ・其の
式』講師・白澤雪俊師

24日▼「埼玉同宗連」第3回役
員会/第32回研修会「ここ
ろのバリアフリー」講師・
竹内政治氏

29日▼埼玉佛青・臨時総会

30日▼「埼玉同宗連」第30回埼
玉県研究集会(深谷)

12月

4日▼浦和仏・埼玉佛青歳末托鉢

8日▼埼玉佛青「写仏」/「県佛
大会打合せ」(岩槻)

14日▼共同募金会・歳末助け合
い募金協力

28日▼事務局仕事納め

今後の予定

平成23年(2011年)

1月

12日▼「埼玉佛保」幼児画展準備
会/新年懇親会(浦和ロイ
ヤルパインズホテル)

14日▼「埼玉佛保」幼児画作品展
入

17日▼第1回臨時理事会/評議
員会/新年懇親会(埼玉佛
館)

21日▼「埼玉同宗連」新年懇親会
(うらわ高砂)

31日▼「埼玉同宗連」新年懇親
会(伊勢丹バンケット)

編集後記

最近、断捨離だんしゃりという聞き慣れ
ない言葉をテレビで耳にした。
ヨガの「断業」、 「捨行」、 「離
行」という考え方を応用、不要
なモノを断ち、捨てることで、
モノへの執着から離れ、身軽で
快適な生活を手に入れようとい
うもの。身の回りをスッキリさ
せて、心の混乱も整理し、前向
きな自分に生まれ変わりたいと
断捨離に熱中する人が増えてい
るらしい。早速行動に移してみ
ようと思う。(鯉)

第26回埼玉県佛教幼児画展

日時 平成23年1月15日(土)

1月16日(日)

10時~16時

場所 さいたま市文化センター

※入場自由